

長期戦略:テーマ 「研究ブランドの確立」

提出日 2021年 8月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	長峯研究推進社会連携機構長 (研究推進社会連携機構)	実施計画の 担当部署	研究推進社会連携機構
-----------------------	-------------------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
3-(2)-③ 資源を投入した研究を評価する仕組みの構築	2019年度	2024年度	必要なし	不要
内容				
「実施計画3-(2)-②「核となる研究群」を育成するための資源を投入する仕組みの構築」で選定された研究群の活動結果の一部は、資源投入の目的と密接に関係する。限られた学内資源の責任ある活用のためには、「核となる研究群」の網羅的な活動評価ではなく、長期戦略で定めた指標への貢献を中心とした、特定の評価要素と目標値をあらかじめ定め、その結果の達成度を測る形態での評価体制を構築することが必須である。なお、その評価結果を「核となる研究群」として資源投入を継続するか否かの決定に用いる。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	資源投入した研究を評価する仕組みが構築・実施できたか	資源投入した研究を評価する仕組みが構築され当該制度が構築・実施されたかどうか		

目標1<指標1>資源投入した研究を評価する仕組みが構築・実施できたか

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	研究プロジェクト評価に関する国の指針および他大学の動向調査	実施計画3-(2)-②で選定された先行事例をモデルに試行的評価の仕組みを構築する	前年度に構築した試行的評価モデルを先行事例に適用し、検証を行う	検証結果を踏まえ「核となる研究群」の評価を導入する		
実績	研究プロジェクト評価に関する国の指針および他大学の動向調査を実施	複数大学の調査を通じて、研究評価の基本モデルに即した仕組みを検討				

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
資源投入した研究を評価する仕組みの構築・実施	策定段階	研究プロジェクト評価に関する国の指針および他大学の動向調査	実施計画 3-(2)-②で選定された先行事例をモデルに試行的評価の仕組みを構築する	前年度に構築した試行的評価モデルを先行事例に適用し、検証を行う	検証結果を踏まえ「核となる研究群」の評価を導入する	
	2022 年 3 月末段階	-	-	-	-	
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2022 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	()年度	()年度	()年度	()年度	()年度	()年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	()年度	()年度	()年度	()年度	()年度	()年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	【指標 1】文部科学省の研究開発評価講座において、評価を行う上で最も重要なポイントとしてあらかじめ被評価対象に対する期待・ポイントを明示することであるという点が強調されていた。研究活動・成果は価値相対的であり、特定の機軸を明確に定めて評価体制を構築することが重要であるという情報を得ることができた。
2020 年度	「感性価値創造インスティテュート」をモデルとし、期待値を定めた評価の在り方を検討した。具体的には外部資金獲得件数・額、学会発表等を数値化し、その推移をまとめた資料を URA が作成した。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	ロードマップに則り、国の指針や他大学の動向を調査するとともに、実施計画 3-(2)-②の実施状況の確認と検証を進める。
2020 年度	ロードマップに則り、実施計画 3-(2)-②で選定された先行事例をモデルに試行的評価の仕組みを構築する。
2021 年度	2022 年度の制度本格稼働に向けて、長期戦略各指標への貢献という観点からの評価項目の整理と、評価を実施する予定である研究ブランド戦略会議に対し、各インスティテュートの評価項目の取りまとめおよび必要に応じ活動改善等を提言する「アドバイザーボード」の設置を検討している。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	—
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・研究を評価する要素は、研究分野によって大きく異なるため、長期戦略の指標達成に即しつつ、研究者の理解が得られる評価制度の構築が求められる。	継続 ・ 廃止	・「インスティテュート制度」に採択された研究プロジェクトについて、進捗・成果を評価する <u>仕組みの確立</u>

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	